

## 各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

## 新エネルギー委員会のお知らせ (第313回)

日時 平成29年7月4日(火)午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時分より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されれば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、藻類オイルの効率的生産について

解説 太田啓之東京工業大学生命理工学部教授

3、『新エネルギー関連ニュース NO. 166』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る6月8日開催の第312回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して開会挨拶がありました。愛知県沖で掘削に成功したメタンハイドレートだが、砂が詰まったことにより、継続産出には事実上失敗した。一方、中国が香港沖の南シナ海海域からメタンハイドレートの採掘に成功したと発表した。詳細はまだ不明だが、事実とすれば、わが国は中国に先を越されてしまったことになる。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・鹿園直毅東京大学生産技術研究所教授の経歴紹介がありました。次に、鹿園教授より、「工場排

熱を利用した電力発生技術」について解説をいただきました。日本の化石燃料輸入額は20兆8千億円である。1次エネルギーとして石油・石炭・天然ガスなどがあるが、ここから利用しやすい電気やガソリン・都市ガスなどの2次エネルギーに加工する際に大きなロスが生じる。エネルギーは高温で利用する方が有効に生み出せるが、人間が使用しているのは高くても2千℃で、3分の2程度が無駄になっている計算である。この無駄を何とか有効利用できないか、というのが我々の研究である。例えば、固体酸化物形燃料電池は、高温の固体電解質を用いたものである、これを工場の溶鉱炉などの排熱と組み合わせて、タービンを用いて発電することによって、さらに効率を上げようというものである。また、廃棄や温排水の廃熱や地熱などからエネルギーを得ようとする取り組みもある。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.165』の解説がありました。今回は、○リチウムイオン電池市場急成長。10年後には約5倍になると予測されている。中国、韓国系メーカーの台頭で単価が大幅に下落している。○水素ステーションの供給拠点を増やし、燃料電池車の普及拡大を目指す。運営費負担が重く、採算が取れていない現状打破を狙う。○北海道帯広に4.4MW、一般家庭の1千5百世帯分の電力消費量を賄うメガソーラーを建設。○圧縮エネルギー貯蔵システムの実証実験。○日本初の機械式波力発電装置の実証実験、○乳牛糞尿を活用したバイオマス発電装置着工、1日20tを受け入れる、○日本の海底メタンハイドレートは砂の混入により6日間で生産打ち切り。一方中国は産出成功と発表。石油・ガス分野の技術蓄積を生かし、商業生産に道筋が出来たという見方も。○深海の熱水噴出口で天然の発電現象が起きていることを突き止める。生命の起源や進化に関係も、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、7月4日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

**テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。**

**非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。**

(その際の会費は三千円となります。)

**事務局宛FAX 03-3507-8587**

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)

当日連絡先 080(8836)6203 (重田) 080(9292)2620 (高津)